

連載 地域おこし協力隊

活動報告

⑤

もうすぐ充電完了

渡邊 聡

地域の人々の心にふれて

下川 徹

三好市に来て、はやいもので4か月が経過しました。祭りなどの参加が続いて、知名度が上がったのか、「地域おこし協力隊です」と言っていると、「知ってる。テレビに出とったやろ」と声をかけられ、その後決まっても「どんな事をしよるん」と聞かれます。



最初の頃は、あたふたして祭りに参加させてもらっていますとか、観光地の何処此処を回った話をしていました。今は、「やりたい事が多くて、一つに決められませんか。もしも面白いようなお話があったら、ぜひ紹介してください」と答えています。

不思議なもので、何かをしなればとか、時間を惜しんで地域の活動をしようとか肩肘を張っているアイデアが浮かんでこないのですが、謙虚に地元の方に耳を傾けると、面白いアイデアがどんどん出てきます。ただ、まだまだ未熟なのか、地元には馴染んでないのか、実行する術とパワーが絶対的に不足しています。

今後は、三好のうまい食材をバリバリ食べ、皆さんのパワーをもらって、アイデアを実行できるように頑張りたいと思います。

葛哲一郎監督の、映画「祖谷物語」秋の撮影期間が終了し、ロケ地の整備や支援、広報活動を行っておりました11月、祖谷の自然の豊かさはもちろん、地域の皆様の心温かいご支援に本当に感謝しました。

山道で遭難しかけたときに道を案内して頂いた皆様、野菜を提供して頂いた落合集落の皆様、土砂崩れで立ち往生していたときに抜け道を案内して下さった建設会社の皆様、京上トネルでの撮影にご協力頂きました皆様、ここには書ききれないほど多くの方々にご厚意を頂きました。心から感謝申し上げます。

三好市のすばらしさは豊かな自然と、豊かな人情だと改めて思いました。それは映画「祖谷物語」を通じて多くの方に伝わると思っています。

今後は、冬、春、夏の撮影が



第2回まちづくり条例策定審議会が

開催されました

10月25日(火)に第2回まちづくり条例策定審議会が開催され、市民委員会の提言にもとづいて起草部会で作成した条文案をもとに、審議が行われました。

条文の総則(条文の目的、用語の定義、まちづくりの基本理念)では、「市民の定義」が議論になりました。結論としては、三好市に住所を有する人だけでなく、在勤、在学者および事業者も含めて市民とすることで合意されました。事業者とは事業を営む個人や法人だけでなく、市内で活動する団体、NPOなども含み、市民としての役割や責務を果たすことが求められます。

次に、市民に関する条文を検討しました。市民に関する条文は、「市民の権利」「市民の役割・責務」「事業者の責務」「地域のまちづくり活動」「人口減少地域への支援」の、5つの条文があります。事業者の責務として「まちづくりに寄与するよう努める」「自然環境の保全に努める」こと

が盛り込まれています。また自治会活動など地域のまちづくり活動について「市民は地域の一員として参加協力するよう努めること」「市は地域自治組織や市民活動団体に対する支援に努めること」などが盛り込まれました。三好市の特性として過疎地域や限界集落の問題などがあります。これについては「人口減少地域への支援」という条項をもうけて、市は「総合的な支援を講じる」ことが盛り込まれました。

市長等の責務に関する条文では、市長は常に市民の声を聴き、「将来を見据えたまちづくりの推進に努める」ことや「まちづくりのビジョンや基本方針」を示すことなどが盛り込まれました。

また市の職員に対しては「全体の奉仕者」ということを認識して職務を遂行することや、地域の一員として「自主的に地域のまちづくり活動への参加に努める」ことなどが盛り込まれました。

第3回審議会は、11月16日(水)、18時から三好市役所本庁舎第1会議室にて開催しました。審議会の内容は、今後も市報にてお伝えする予定です。

また、条例案が策定されましたらパブリックコメントを実施し、市民の皆様のご意見をいただくこととしていきます。



お問い合わせ先
三好市 企画調整課
電話 72-7607・ファックス 72-7202
kikakuchousei@city.tokushima-miyoshi.lg.jp

命の架け橋、救急医療

先月号に続き、救急医療の大切さ、必要さを感じることもなった私の体験を紹介しながら、救急医療とはどういう役割を果たすものなのか、命を繋ぎ止めようとする者やその家族たちにとって、どれだけ大切な存在なのかを考えていただき、救急医療が受けられることで、安心して生活を過ごし、より充実した日々になればと願います。それには、お医者さんや看護師さんなど、医療機関で働く方々の存在がとて大きな役割を担っています。お医者さんたちがいなくなればどうなってしまうのでしょうか。それは言うまでもなく、恐ろしい事態に陥ってしまいます。

かけがえのない命

私の母は視覚障害者であり、体が非常に弱く、今では主治医のO先生のご支援をいただきながら病魔と懸命に闘っている。苦勞・心配をかけてしまった私にとってかけがえのない、失いたくない母である。

母の場合、救急医療には



数えきれないぐらいお世話になつていたので、一番最近の体験を紹介する。それは10月のある深夜のこと。母の体調が急変し、足がたたなくなり呼吸がヒューヒューという音をだし、とても苦しそうであった。私は、母の主治医がいる病院（救急医療を担っている）に電話をした。「すぐに連れてきて欲しい」との事だった。父と私で母を車にのせ病院へと急いだ。車の中でも容態はどんどん悪くなる。病院に着くと運よく他の患者さんがおらず、すぐに救急治療室に搬入され治療を受けることができた。しかもその日は母の主治医が当直であった。処置が終わる

先生に呼ばれ、母親の状態について話をしてくれた。私は母親を思う感情などが入り混じり、泣きながらO先生に話しをした。先生は最後まで真剣に話しを聞いてくれ、情のあふれる暖かい言葉と気持ちで励ましてくれた。先生が私にかけてくれた言葉（気持ち）の中で、今なお私の励みとなつている言葉を紹介します。私は本当に母を失いたくない。でも、私には病気を治療することはできない。先生に母をお願いすることしかできない。私は次の言葉を先生に言った。

私「先生、私は母に何もしてあげることができません。母は眼も見えず、生きていくことも思えない生きがい・楽しみもありません。テレビをみることもすらできません。どうしてあげたら良いか分からん」

先生「お母さんは娘さんの気持ちには、十分分かっていますよ」

私「少しでも長生きさせてやりたい。先生、母さんをお願いいたします。」

と私は先生に言った。先生は「はい」という言葉とともに首をこっくりと頷いてくれた。その瞬間、私は言いようのない暖かい感情に支えられ

とても心強かった。その後、母はHCU（高度治療室）と一般病棟でお世話になり、約束どおり先生は母を私たち家族のもとに再び戻してくれた。深夜に診てもらえる医療体制・医療機関がなかったら母はどうなっていたら。考えるだけで恐ろしかった。母は幾度か命を助けてもらい、家族は母と一緒にいられる時間をいただいた。この貴重な時間を先生、看護師さんたちに感謝しながら大切に生きていきたい。

り際、救急治療室の方を見ると先生と看護師さんたちは、患者さんの処置に奔走していた。「また、患者さんの命を繋ぎ止めようと必死に先生たちは病気を闘っているんだ」廊下から見える救急治療室が聖なる領域に見えた。

ひかりと支え

神様は私にすばらしいかけがえのない者を与えてくれた。それは私の娘（母にとつて初孫）である。生まれた時から母と過ごしていたため、母が何をしたいか何をしてあげることが私より理解している。私が気づかないところは娘が介護してくれる。今、私たちは親子は大好きな母（ばあちゃん）と一時でも長く過ごせるよう、本人を含め二人三脚ならぬ三人四脚で毎日を過ごしている。そんな私たちに支援、指導をしてきてくれるのが強力な助っ人の主治医のO先生である。先生は私たち家族にとって「正義の味方アンパンマン」である。

救急医療にこころをいかに

人の命と向き合う仕事「医師」。母もそうであるが必ずしも助かるとは限らない。人

間には寿命がある。しかし、救急医療は何時でも治療が受けられる。生命の危機に陥っている人間には必要不可欠である。この救急医療体制がより一層充実できるように我々の協力も必要でないかと思う。それは、私たち自身のためである。生命の危機に瀕した緊急時、診察してもらえらうということは、我々にとって安心して生活が過ごせる基盤だと思ふ。人の命と向き合い過酷な現場で患者さんと一緒に病気を闘っているお医者さん、看護師さんたちに、感謝する気持ちも大事なことでないだろうかと思う。

2か月にわたり、私の経験した救急医療を紹介しました。この体験談で少しでも救急医療の重要性を感じ、徳島県救急医療体制に興味をもつていただければと思います。今回は救急医療についてご紹介しましたが、救急医療を担うお医者さんばかりではありません。どのお医者さんも過酷な現場で私たちのために頑張っています。

◎三好市保険医務課
地域医療担当

私たちの大切な地域医療を守るために

住民・医療者・行政が一体となり、「地域医療」を守っていくため、様々な情報を発信します



▶三好市の協賛店舗、施設名（4月以降追加分）

（有）鳴門商事なるとうどん、珈琲館おおぼけ、ローソン三好池田店、手打ちうどん風輪、ラフティングリバーランプラス、（株）ゼネラル祖谷口、道の駅大歩危【妖怪屋敷 / 石の博物館】、大歩危峡観光遊船（有）大歩危峡まんなか、太陽がいっぱい、（有）イサワ文具販売、喫茶ナブール、どさん子大将、（株）小川モーターズ、リバーステーション West-West【徳島らーめんにしり / 祖谷そばもみじ亭】、お好みハウス You、札幌ラーメンどさん子箸蔵店、美容室リーフ、御食事処いたみ、味一阿讃、お好み焼きの店花らん、美容室たいふ〜ん池田店、ケーキとイタリア料理ターボラ、阿波みよし農業協同組合箸蔵給油所、レストランデネブ、（有）サイクル・バイクショップオオニシ、よしだ旅館、旅の宿奥祖谷、キミ美容室、アウトバーン、フレスポ阿波池田店【宝石・時計の山下 / メガネのアイ】、祖谷ふれあい公園、三野自動車（有）、三好市健康とふれあいの森、美容室FANCY フレスポ阿波池田店、民宿まつうら、平家の宿

▶対象世帯とパスポートの配布

18歳未満のお子様のいる世帯を対象に、パスポート「くつつき虫」を配布しています。三好市では子育て支援課で配布しています（無料）。また、下記のホームページから、パスポートのダウンロードや、ご利用いただける協賛店舗や施設などの情報がご覧いただけます。

<http://www.pref.tokushima.jp/kodomo/outline/>

※携帯電話からはこちら



QRコードからアクセス
パスポートをGET!!

<http://mobile.pref.tokushima.jp/kodomo/>

▶協賛していただける店舗・施設を募集

子育ての応援となる取り組みを協賛内容として募集しています。子育てを応援する取り組み以外に費用の負担等は一切必要ありませんので、行政・地域と一緒に子育てを応援しましょう。

徳島県 GO!GO! くつつき隊 応援事業



徳島県では、お子様と一緒に過ごしふれあいを深める機会をもってもらうため、県民・事業所・行政が連携して子育て家庭を応援する「徳島県 GO!GO! くつつき隊応援事業」を実施しています。お子様と一緒に、協賛いただいている店舗や施設などへお出かけしたときに「くつつき虫」を提示すると、いろんな優待サービスを受けることができます。

【お問い合わせ先】

徳島県保健福祉部こども未来課
☎ 088-621-2178

自分の健康のため、大切な人のために… 年1回の特定健診を受けましょう

糖尿病など生活習慣病は、発症しても自覚症状がない病気ですが、徐々に全身の血管を傷め、脳梗塞・心筋梗塞・腎不全などの生命にかかわる病気を引き起こす原因となります。三好市国民健康保険から「特定健康診査受診券」が届いている方で、健診を受けていない方は、ぜひ受診してください。

受診期間▼12月31日まで

受診方法▼「特定健康診査受診券」と「国民健康保険証」を持参し、指定医療機関で受けられます。受診料として1000円が必要です。

お問い合わせ先

三好市保険医務課（☎ 72-7613）
三好市健康づくり課（☎ 72-6767）

